



復刊第77号  
題字 吉岡弥生

# 年頭の辞

## 会長・し神美和



会員の皆様!! 明けましておめでとございます。世の中の動きとは関係なく月日は流れて、昭和五十三年が暮れ、五十四年の新春を迎え、新年のご挨拶を申し上げることになりました。一年は何と早く経つことかと、この日月の流れを思うとき、一層、一日一日を大切に有意義に過ごさねばならないと思うのであります。

さて過ぎこし一年、昨年をふり返ってみますと、経済界や社会の慌しい動きとは違い、本会にとっては誠

に平穩に、そして実のり多い年でありました。これもひとえに、会員の皆様が心を一つにして本会のためにご協力下さった賜であります。このご協力によって、本会はますます発展して行くものと私は信ずるのであります。何とぞ、本年もよろしくお願い申し上げます。

さて昨年の出来事について顧みますと、第一に、定款改正のことがあります。

一昨年よりひきつづき、他選、自選の定款改正委員の方々が、七回も委員会を重ねられ熱心なご討議を経て、理事会に答申されたのは六月でありました。それからこの問題を理事会で討議し、二度、三度と回を重ね定款改正委員会案を一部訂正して、決定を見たのは十一月でありました。国の憲法に当る定款の大々的

な改正でありますだけに、会員の皆様にご了解されるものでなければならぬので理事の方々も慎重に審議を重ねたのであります。これがさらに評議員会、総会を経て可決された暁には、厚生省に提出されまして、厚生省の認可が出てはじめて、改正された新定款となるのであります。それで新定款が発足するのは本年のことになります。思いのほか時間のかかりましたことを申し訳なく思っておりますが、これも、会員のどなたでも納得のゆくような改正をしたいと慎重審議をいたしましたためでございますので、ご了解をいただきますと存じます。

第二に第十六回国際女医会会議への参加であります。西ベルリンで開かれました第十六回国際女医会会議への日本からの参加者は二百名を越え、かつてない多数のご出席でありました。また演題も三つを数え(一つは映画)その内容の充実さも他のいづれのものよりすぐれていたと思えます。日本女医会はこの様な国際的進出は一九七六年の東京大会において、会員の皆様が国際会議への認識を深められたことによるとは存じますが、単にそのみでなく本会会員の国際会議への積極性のあらわれと思ひまして、誠によろこばしいことと存じます。

エコノミック・アニマルの汚名を返上すべく、国をあげて文化交流に励んでおります時、本会も知的団体として、その一翼を担うことが肝要

### 日本女医会誌(第七十七号)昭和五十四年一月二十五日

#### 目次

年頭の辞……………三神 美和……………1  
 定款改正について……………橋本恵美子……………2  
 新年にあたって……………各部より……………

支部だより……………

東京都港区	齊藤 歌子……………6
東京都下	村野 喜代……………6
添田	百枝……………6
稲生	襄……………7
海外での国際女医会々議に参加して	森川みどり・佐藤千代子……………8
研修会報告……………	小出つる子……………8
中国針法への傾斜……………	添田 百枝……………8
トリコマイシンの発見から抗ガン剤発見へのアプローチ……………	岡本 歌子……………9
線維素溶解現象研究の二十年から……………	龍知恵子・藤永数江……………10
幼少脳性マヒ療育施設の創設と現状……………	佐野アヤ子……………10
Circular Letter No. 52……………	佐野アヤ子……………10
理事会議事録……………	九月末日・十月三日・十月十六日・十月二十五日……………12
事務局だより……………	……………14
編集後記……………	……………14

であります。今後もその意味において、多くの会員が国際会議に出席されまますよう希望して止みません。

第三に学術研修会の開催であります。三年前、新理事会が発足した際、従来の理事の業務分担に新たに学術部を設け、森川みどり常任理事が主任としてこれに当られることになりました。科学者団体と自認する本会

は、その名に恥じない仕事をするところが肝要と思ひますので、学術部としては全国の女医を対象として学位取得者の調査、吉岡弥生賞の募集など着々と手をつけておりましたが、昨年は、吉岡弥生賞受賞者による講演会を企画され、昨年十一月十一、十二日の両日にわたり埼玉武蔵嵐山にある国立婦人教育会館で講演会

を開催しました。

五月の総会の際にも一般講演をお願いしておりますが、時間がつかまっておりますため、落ち着いて会を行なうことが出来ませんので、別に研究会を持つというこの度の企画は誠に適切なものと思えます。小出先生の中国針のお話に新しい眼を開き、添田、岡本両先生のご講演に科学者の真剣さを知り、龍先生・藤永先生の脳性小児麻痺児のお話に、両先生の無から有を生じた熱意と人類愛を感じるなど、百名の参加者に多大の感銘を与えたようでした。またフジテレビの女性ニュースキャスター有馬氏の「今日の婦人問題」も大変おもしろく、私共も女性の地位向上のために立ち上らねばならないことを痛感させられました。

国立でありますので、宿泊料、食費なども極めて廉価、その上設備、環境も申し分ない所で、研修をうけながら心身の安まる思いをしたのは単に私だけではなかったと思えます。毎年この場所を利用して研修会を開き、さらに若い女医のため研究発表の場として活用し、研究助成の裏づけとなればと心に念じたのでした。以上は昨年行われた主な行事であります。これは昨年でうち切られたものではなく、今年はこちらをひきつづいてよりよいものへと発展させて行かねばならないと思えます。定款改正の決定をみれば、それには当然であります。決定せぬう

ちは従来どおりであります。いづれ評議員会、臨時総会でご討議いただきますので、よろしくご理解下さいますようお願い申し上げます。

今年新たにささねばならぬことは、国際女医会記念基金の運用の件であります。五十二年の臨時総会で、事務所移転の件と、それに伴う事務所設置のための資金使用は承認されましたが、その後この委員会の必死の努力にもかかわらず、事務所を借りることも、もち論買うことも思うに任せず、この問題は将来に持ち越すことになりました。国際女医会東京会議が終了して満二年半を経過した今は、六千万円を如何に運用するべきかを改めて討議すべき時だと思えます。時期晚きに失するの悔みはありますが、本会としての仕事に役立たせるよう使用しなければならぬと存じます。とりあえず理事会の中に、その基本を決める委員を選び、その骨子を考えていただき、それを皆様に討議していただき、総会に提出する原案をつくっていただきたいと思えます。

その中に盛り込まれるものとしては、国際関係のものもありましょう。學術関係のものもありましょう。また事務所関係のものなどさまざまあると思えます。それをどう振り分けるかなど色々考えねばならない事がありましようから十分ご検討していただきたく存じます。學術部においては従来の吉岡弥生賞とは関係なく、研究助成を実施し

たいと思えます。若い女医の研究を少しでも理解し、助成し、勇気づける意味でぜひ実行に移したいと思えます。それには国際女医会記念基金の一部をこれに割いてもよし、本部会計から出してもよいと思えますが、多数の会員がこの恩恵を受けられましよう切望して止みません。経済界はひきつづき、きびしい年

### 定款改正について

委員会答申—理事会案決定まで

副委員長 橋本恵美子

日本女医会定款(改正)論をめぐってさまざまな角度から見直しを迫られる動機を作ったのは、やはり五十二年総会(役員改選時)における常軌を逸する大混乱が焦点であったことはいなめない。しかし、その数年前から、具体的形には到らなかつたにしろ不平不満がくすぶっていたことも見逃せない。特に、女医会の有用無用論は最近とみにその勢いを増し、無関心の一語でまことに他愛なく片付けられてしまう存在価値の弱さをどう対処すべきか、が大きな課題となりつつある。

国の内外を問わず激動する流れの中に医界も例外ではなく、来年はまさに正念場を迎えようとするとき、

ときいております。医療の世界もまたきびしい年と思えますが、私どもは自らを磨き、学びつつ、困難を克服し、一致協力して、社会のため、人類のために盡くそうではありませんか。昭和五十四年の年頭に当り所感をのべて、新年のご挨拶といたします。

「女医会はどういう意義を持ち何をなす会なのか、について明確な答がほしい」といわれてみると、さてこれこそが女医会の真髓なりと返すものは一体何があるだろうか。ともあれ、日本女医会がこのまま推移することはゆるされそうもなくなつて来た。

先日、広島県支部会広報が送られて来た。拝見してみても、定款委員会報告などまことにあざやかにまとめられていて、そのまま本会誌に転載させていたが、そのままたとやかく、日本女医会に寄せられる並々ならぬ熱情に対し啓発させられるところ多。啓発されついでに申し上げるならば、

逃げ腰になつてゐる会員諸姉に、こうした実態が果して理解し把握していただけるかどうか、まことに暗中模索の思いだが、とにかく重大な岐路に立つて、きれいごとではもはや済まされぬ決意と責任を執行部の一員として深く感じる。

昭和五十二年三月の時点で、全会員に定款改正の是非及び定款委員希望者を含めたアンケート調査を行い(アンケート依頼と定款の沿革とミ二解説発送)迂余曲折を経て、十八名の理事を含む定款委員が指名され、会長の諮問による定款委員会が発足。ときに昭和五十二年十月。(以後毎月第三土曜日を定款委員会開催日と決す)

第一回委員会席上、三神会長は「定款改正については、来年(昭和五十三年)の総会に答申すべく可及的速かに進行したい」旨ご挨拶あり、また、前後するが山本委員長も誌七十三号にて経過とご意志のほどを述べておられるので何とぞご参照下さい。当初から「定款本体には、あまり触れずに細則の部分的変更にとどめるべき」と主張する委員達と「定款細則とともに同時に改正を要する」とを望む委員達とはつきり分れてきたためかギクシャクした空気はやむを得なかつたけれどもとにかく、決められた日程を一回も中断することなく、計七回の委員会を完了し、時には深夜にも及ぶ苛酷なまでの審議に徹した委員の各位には只々頭の下が

る思いである。(財政の関係もあろうけれども、委員達が自から奉仕を名乗り出たとはいえ、全くの無報酬に終始したことはいささかきびし過ぎはしないか)

昭和五十三年四月、定款委員会もようやく最終会にいたり、これまでの審議内容を再点検し会長に答申案提出の運びとなる。

昭和五十三年五月の定時総会には理事会の答申案を持って臨むことを希望しておられた会長も、この段階では継続審議する旨の報告しかなさなかつたのは致し方ないと思われる。また山本委員長からは、昨秋以来三十一名の委員が慎重審議を重ねたこと、時代の推移と日本女医学会の発展に伴い、地域ごとに会員の代表として代議員を選出し、地方とのより緊密な提携をはかり、従来の同窓会的意識の壁を打破するために代議員制度を採用することが改正の骨子である。と説明された。

昭和五十三年年度の定時総会終了後、答申案に基き理事会にて再チェックが開始される。理事会中再度にわたり支部有志の方々が多数傍聴され、経過をつぶさに観察するという女医会初の体験もあり、なお公文書による要望書が都合三回、会長、副会長、定款委員長並びに副委員長宛送付された。内容は省略させていただくが、いづれも代議員制度を強く訴えたものであった。人間とは面白いもので、その置かれた立場なり環境が変わると認識の度

合いも変化することがあるようで、委員会で決定したはずの事項がまた振り出しに戻ってしまったたり、発言が不明確になったりするので、傍聴者の諸姉にはさぞかし異様に映った点もあると思うけれども、見方によっては事ほどさように定款とは難解を極めるものであり、これに手を加えることは容易なわざではないといえましよう。

昭和五十三年十一月の理事会で、ともあれ理事会案の成立を見ることが出来たことはまさに感慨無量のものがある。

資料は十二月に送付済みですが、早急にお目通しの上、臨時総会にご出席下さると幸甚でございます。

今回の自民党総裁選を引き合いに出すまでもなく、新しいものへの挑戦は常にそれなりの不安と混乱をともなうものであり、それを乗り越える勇氣と決断のむこうに成果があることは、すでに日本女医学会も昭和四十五年の万国博医療を通じ、また日本における国際女医会議を経て実践ずみのことである。

世は不確実時代といわれ、その中の確実性を問われている昨今、多少の混乱は覚悟しつつ、そこに脱皮した新しい日本女医学会の姿を見出すべく基盤がためをする一方、古き良き慣習はあくまで大切に守り育てる姿勢こそが、今最も要求されているのではなからうか。二年近くもかかって練り上げた今回の定款修正案と

真正面から取り組んでゆくことは、多分、会員をして「日本女医学会はどうしても自分達にとって必要な会であり、直接的メリットなど求めなくとも会員でいることに十分満足出来る」といわしむる一端になることを私どもは信じよう。そういう会はまた、思いやりと愛情にみち溢れているはずである。そのための試金石たる定款改正でもある。(昭和五十三年十二月四日)

ブロック別会員数

昭和53年2月現在

北海道	92	
東北	225	青森(40), 岩手(21), 宮城(61), 秋田(36), 山形(18), 福島(49)
甲信越	209	山梨(38), 長野(48), 新潟(28), 富山(29), 石川(40), 福井(26)
関東	629	茨城(69), 栃木(60), 群馬(78), 千葉(98), 埼玉(110), 神奈川(214)
東京都	1330	都内(1163), 都下(167)
東海	366	静岡(92), 愛知(201), 岐阜(36), 三重(37)
近畿	466	大阪(203), 京都(56), 滋賀(11), 奈良(32), 和歌山(30), 兵庫(134)
中国	251	岡山(70), 広島(119), 山口(27), 島根(26), 鳥取(9)
四国	179	徳島(41), 香川(46), 愛媛(22), 高知(70)
九州・沖縄	209	福岡(69), 佐賀(23), 長崎(27), 熊本(41), 大分(14), 宮崎(12), 鹿兒島(19), 沖縄(4)
総会員数	3956	

謹賀新年

会長 神宮美和

副会長 小俣 有子

理事 川那部喜美子

山崎 倫子

福丸 孝子

久保田 久子

中川 富士

野村 幸枝

福永 公子

松岡 宏子

丸山 実実

赤川 孝子

宇野 幸枝

柳瀬 路子

尾中 妙子

大西 保乃

大魚 一枝

理事 川島 富子

佐野 ア子

佐藤 千代子

鈴木 文子

竹内 静香

野村 幸枝

橋本 幸美子

蓮井 初子

栗原 文子

福島 峰子

藤井 侑子

藤岡 純子

一木 貞子

山口 之重

山本 光子

白浜 光子

添田 百枝

理事

川口 心子

監事

添田 百枝

新年にあたって

各部より

久保田くら  
松岡 宏子  
大西 保乃  
竹内 静香  
野中 久子

昨今は何事によらず繁雑で、そして喧嘩きわまりない。これは日本女医学会の庶務をうけたまわっているからではない。世相である。しかし、庶務は用事が少ないなどとはいえない。なおまた定款のことで忙しかったように思う。理事会に委員会の答申案が出されてからの仕事は多かった。定款に関する知識が豊富である上に筋をとおしてかたよらぬ松岡理事が諸事万端を背負ってくれた。いや背負ってもらったのである。たださえ細身の長身がなほ一層細い松岡さんになったように思えてならない。反対に榮をし、得をした私は平常の本身に輪をかけて太目になった。即ち神が、私に報を与えたもうたのである。神は偉い。私などはもう直ぐ人生の終極にゆきつくので、せめて諸事を美事に看破する神に、現世でもあの世でも見離されぬよう正直に懸命に生きたいと切に希っている。

会計部

福永ひろ子  
守安 素女  
川口 正子

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

昨年、内外の状況は誠に複雑多岐で、\$二〇〇円を割る円高、長びく不況に加えて年末の政権の交替、唯一の明るいニュースは日中平和友好条約の締結のみ。

外国では、南米ガイアナの集団自殺事件。イランの改変は、特に来年の国際女医学会が開かれる国とあつては無関心ではいられません。昨年八月末、ベルリンで開かれた第十六回国際女医学会に参加しましたが、会の運営面もレセプションも決して恵まれた状態ではなく、ドイツ女医学会のご苦勞を思い、二年前の東京会議の大成功に思いをいたし感無量でした。

わが日本女医学会は、定款改正に取り組んで二年目、定款委員会の答申案に対して理事会の慎重審議の結果最終案が決定し會員の皆様へ発送の段階となりました。賢明なる會員諸姉のご検討をおねがひします。

わが日本女医学会は、定款改正に取り組んで二年目、定款委員会の答申案に対して理事会の慎重審議の結果最終案が決定し會員の皆様へ発送の段階となりました。賢明なる會員諸姉のご検討をおねがひします。

わが日本女医学会は、定款改正に取り組んで二年目、定款委員会の答申案に対して理事会の慎重審議の結果最終案が決定し會員の皆様へ発送の段階となりました。賢明なる會員諸姉のご検討をおねがひします。

わが日本女医学会は、定款改正に取り組んで二年目、定款委員会の答申案に対して理事会の慎重審議の結果最終案が決定し會員の皆様へ発送の段階となりました。賢明なる會員諸姉のご検討をおねがひします。

事業部

柳瀬 路子  
尾中 妙子  
川島富久子  
蓮井 敏子  
藤田 親代  
八木 貞子

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

取り入れて、皆様に納得していただくような予算を組み、また年度末には決算書を作成して、残された任期を全うしたいと存じます。

本年が皆様にとってよりよい年であると共に、日本女医学会の、より一層の前進、発展を心から祈念してやみません。

新年にあたって抱負、希望を書けとの広報部のご依頼であるが、目下事業部としては「実態調査」を終了したところで、来年度は役員交代もあり得ることであるし、例年の年金事業、ルーベ販売、およびその他定款で定められた事業を別に考えると、全く新しい出発点に立っているところである。

新年にあたって抱負、希望を書けとの広報部のご依頼であるが、目下事業部としては「実態調査」を終了したところで、来年度は役員交代もあり得ることであるし、例年の年金事業、ルーベ販売、およびその他定款で定められた事業を別に考えると、全く新しい出発点に立っているところである。

新年にあたって抱負、希望を書けとの広報部のご依頼であるが、目下事業部としては「実態調査」を終了したところで、来年度は役員交代もあり得ることであるし、例年の年金事業、ルーベ販売、およびその他定款で定められた事業を別に考えると、全く新しい出発点に立っているところである。

新年にあたって抱負、希望を書けとの広報部のご依頼であるが、目下事業部としては「実態調査」を終了したところで、来年度は役員交代もあり得ることであるし、例年の年金事業、ルーベ販売、およびその他定款で定められた事業を別に考えると、全く新しい出発点に立っているところである。

学術部

森川みどり  
稲葉 幸子  
大原 一枝  
佐藤千代子  
福島 峰子  
野呂 幸枝

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

喜同憂のものなのだから、日本医師会が解決する道があるが、若年層というか勤務医の問題になると、なお男女平等といえない点もあるようです。昇格、待遇など、もう少し突込んだ調査を行って、主張すべきは主張することを団体の力でやらなければならぬのではないかと思う。

また老年層の問題としては、老後を過す生活の場というか、セカンドハウスというか、暖かい環境の良い土地に有志で出資してマンションを建てたい。間取りなどは自分達の好きなようにして、また地域のために外来位は週一回半日交代で診られるようなスペースも作って老後を楽しく有意義に暮らしたい。こんな仕事を女医学会でやってくれれば良いが……

新年にあたって抱負、希望を書けとの広報部のご依頼であるが、目下事業部としては「実態調査」を終了したところで、来年度は役員交代もあり得ることであるし、例年の年金事業、ルーベ販売、およびその他定款で定められた事業を別に考えると、全く新しい出発点に立っているところである。

新年にあたって抱負、希望を書けとの広報部のご依頼であるが、目下事業部としては「実態調査」を終了したところで、来年度は役員交代もあり得ることであるし、例年の年金事業、ルーベ販売、およびその他定款で定められた事業を別に考えると、全く新しい出発点に立っているところである。

新年にあたって抱負、希望を書けとの広報部のご依頼であるが、目下事業部としては「実態調査」を終了したところで、来年度は役員交代もあり得ることであるし、例年の年金事業、ルーベ販売、およびその他定款で定められた事業を別に考えると、全く新しい出発点に立っているところである。

新年にあたって抱負、希望を書けとの広報部のご依頼であるが、目下事業部としては「実態調査」を終了したところで、来年度は役員交代もあり得ることであるし、例年の年金事業、ルーベ販売、およびその他定款で定められた事業を別に考えると、全く新しい出発点に立っているところである。

研究助成金について

吉岡弥生賞受賞者推薦について  
まだまだ沢山の該当者がいらっしやると思います。広い地域から広い分野で積極的にご推薦ください。

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

研究助成金について

吉岡弥生賞受賞者推薦について  
まだまだ沢山の該当者がいらっしやると思います。広い地域から広い分野で積極的にご推薦ください。

昭和五十四年の新春を迎え、會員の皆様にはお健やかに各分野にご活躍の御事と心からおよろこび申し上げます。

せつかくの制度です。是非ご活用を。

1、2、ともに毎年女医学会誌にて公募しています。

3 研修会について

皆様からの演題、企画などご意見を寄せてください。

学術部としては

●前年度にテーマをきめてワークショップを行う。テーマとして、例えば「女医と地域医療」、若い女医のために「女医として主婦として」「いつまでも若く美しく」など

●全科に関連あるテーマでシンポジウム、例えば「ペインクリニック」

●最近の医学の動向についてのトピックス

●支部活動の発表、毎年数支部ずつ順番に数分間支部の活動現況を発表

●国内外社会情勢についての講演 (文責 森川)

渉外部

中川 富士  
佐野アヤ子  
鈴木 文子  
平瀬 文子  
山本 杉

一九七九年の年頭に当り、渉外部の一端を述べさせていただきます。

一九六六年にアメリカのロチェスターニューヨークで始めて、国際女医学会第十回国際会議に参加しました。日本からは三十名の出席で、三流ホ

テルに泊められ、後進国並に扱われ、みじめな思いをしました。

その時に、日本女医学会を世界女医学会の中で一流国並になるよう、努力せねばならぬと強い決心をしました。

しかし、私は時にはアメリカの考え方をすることにより皆様に誤解を受けるようなことも度々ありました。

大事な国際間の動脈である国際連絡書記としての仕事も十年以上になりました。

おかげ様で国際間の皆様の信頼と尊敬を得るようになりました。国際間の信頼は早急にできるものではなく、永年の積み重ねによりできるものであると思います。

その後、ウイン、メルボルン、パリ、ブラジル、東京、ベルリンと本会会員の参加者はだんだんと増加し、東京で開催された一九七六年の第十回国際会議は一一〇〇名の参加で盛会裡に終了し、本年のベルリン会議も一〇〇〇名以上の参加で日本からの会員は二〇〇名を越し、始めて日本語の同時通訳が行われ、世界一の参加でした。

経済発展と共に日本女医学会の地位も次第に高まり、国際女医学会の中で日本女医学会は二〇〇名分の会費を納め、やはり世界で一番多く、世界の四大国(アメリカ、イギリス、ドイツ、日本)の仲間入りをしました。

一九七二年にパリ会議後に設立された日本の国際フアンドを増加し、国際交流を進展させ、地域的または国際的に学術講演会及び研究会を行

い、主にアジア地域における発展途上国の女医並びに女医学会等で医療の援助に役立つよう努力したいと思

います。たとえば、アメリカ女医学会では「American Women's Hospital Service」があつて、南米のエクアドル、インド、フィリピン等の田舎に診療所を作り大いに活躍していま

す。また個人的にアフリカの奥地や中近東等にアメリカの女医さんが一定の期間のボランティアサービスをしています。

日本女医学会の大先輩、宮地国栄先生(国際女医学会で本年発行された先駆者の小伝の中に記載された)はすでに約六十年前前にビルマで医療奉仕されています。私見ですが、今後日本女医学会でも発展途上国の女医さんが日本に来て勉強出来る体制を考慮してもよい時期ではないでしょうか。

以上実情を述べさせていただきます。今後も国際女医学会の交流を深め、事業も発展する様に念願してやまない者です。皆様のご協力をお願い致します。(文責 佐野)

国内渉外については、主として会長、副会長があたられますので、その補助的役割をして来ましたが、

国外渉外については、国際連絡書記佐野アヤ子氏に書いていただきました。(文責 中川)

広報部

丸山 芙実  
野沢 良美  
橋本恵美子  
藤井 博子  
山口 三重

明けましておめでとうございます。昭和五十四年の新春、会員諸先生方には如何過ぎましたでしょうか。

会誌も今回の新年号で第七十七号の発行の運びとなりました。顧みますと昭和三十四年に初版が出されましてすでに二十年の歳月を経

ております。そしてこれまでに担当理事がその折々に応じ特色ある構成により編算されてまいりました。

本会誌を年代順に見ておりますと、実によくこれまでの日本女医学会の活動状況が詳細に記録されており、日本女医学会の履歴として十分に伝えていると思ひます。その間の担当理事のお骨折に對して敬意を表します。

さて、私ども五人が引継ぎまして今までの編集が広報部という名称で発足しました。以来広報部というの

は会員と一番よく密着した存在であり、また私どもの意のあるところを如何に知っていただけるかどうかという

意味で広報はまことにやり甲斐のある仕事と存じます。よりよい会誌を

目指して私ども一同、心を一つにして頑張っております。

原稿依頼から入手迄約四週間それから初校、二校、三校とそれぞれ一週間から十日は要します。如何に印刷を急がせても刷り上げる迄二カ月以

社団法人 日本女医学会  
第二十四回定時総会  
のお知らせ

日時 昭和五十四年五月二十日

(日)午後一時

場所 京王プラザホテル

①一六〇 東京都新宿区

西新宿二丁目一

Tel〇三三三四四一〇一一

(代表)

なお五月二十日午前十時より評議員会が同ホテルで行われます。

京王プラザホテルにお泊りの方は予約の際、日本女医学会々員であることを申し出た場合は、宿泊料を割引いたします。

上はかかります。もつともこれはスムーズにいった場合のことで、会誌発行期日を厳守するために会員皆様の御協力を御願ひしなければなりません。

今年こそ広報部の夢が叶えられま

すよう願ってやみません。この上ともに会員諸先生の益々のご健勝とご活躍を祈念して新年のご挨拶いたします。(文責 丸山)

支部だより

東京都港区

支部長 齊藤 歌子

港支部の現況をご報告いたします。現在の会員数は、昭和五十二年度の名簿により三十九名、それに本年度の入会者三名で合計四十二名でございます。

港区医師会員数は四三〇名、うち女医の数は三十二名で、約一割弱を占めております。このうち日本女医会員は十三名と大変少く、新しい方のご入会のないのが残念です。

もう少し、新しく各地の医大を巣立つ女医の方々が、日本女医学会に関心をもち、入会されるように考えて行かねばならないと存じます。

開業してまいりますと、地区医師会の活動に参加することも、これから私達の大事な仕事と考えます。年々女医の数もふえてゆきますし、地区医師会の中の女医の役割も重要になってまいります。

港区医師会現執行部の理事に私も加っており、会員の約一割弱を占める女医の代弁をすることも、意義あるものと思っております。なお代議員にも、細川姉、二村姉が選出され活躍されております。

私達は、日本女医学会の方も、日本女医会に入会されていない方も、勤務の方も、開業の方も一緒に、港区女医会として、親睦と相互扶助の会をつくっており、医師として、主婦として、母として、仕事と家庭を両立させるむづかしさ、悩みごと等を話合っております。日本女医会港支部の活動もその中に含めて、年に二回、一泊旅行と会食会を開いております。その節日本女医学会のPRも行って、入会をおすすめするよう努力しております。一泊旅行は、春は花を訪ねる旅で、三年前は高遠の桜、一昨年は吉野山のお花見、昨年は信州に杏の花を訪ね、戸隠の残雪、善光寺の参詣と、もり沢山に楽しい二日間を日頃の多忙とストレスからのがれ楽しみました。秋にはおいしいお食事の会を地元赤坂、六本木と訪ねております。一昨年は高輪プリンスホテルで長崎ちゃんパンを賞味、秋の夜長をよもやま話ですごしました。

昨年は何かと忙しく遅れてしまいましたので、忘年会をかねて十二月十三日ニューオータニで中華料理をいただきました。幹事は輪番制でございます。

何かとマスコミの医師批判のきびしいこの頃、ますます医師としての団結が必要な時期でございますが、私共も日本女医会を中心として、女医の縦横のつながりをかたく結んでゆきたいものと念願しております。港区支部も頑張つてゆくつもりでございます。

東京都下

支部長 村野 喜代

明けましておめでとうでございます。東京都下は昔の三多摩地区にて二十年前に市町村の合併があり、現在は二町村以外は市制が施されております。この地区は東西南北に広がり、会員は一五一名です。最も多い所は武蔵野市、調布市、町田市の順にて青島の孤島に同級生の吉田姉が一人おります。なお東京都のベッタウンにて人口の増加著名です。

東京都下支部は、女医会本部の主旨に従って会員の和と医学的学習を軸として運営しています。地区は広く会員数も多いので、東、西、南、北、中央の五地区に分けて、地区幹事の方に何かとまとめを願ひ協力していただいております。会合は年に一〜二回と決め学習に懇親に時に応じて開いております。会場は地区回り持ちとして、会員の方々のご出席され易いようご協力をお願いしています。

学習の点は、東京中心の近くにありますので東京都医師会主催の学術講演会、各医科大学講演会、研究会を利用されることも多いと思っております。会の立て前として年一回は学習の場を開きます。幸い国立立川病院院長の小俣副会長のご配慮にてよき演題の講師をお願いしています。時にはアレルギー専門医の気管支喘息の近代的治療について勉強もいたしました。親睦を中心とした会合としては地区の持ち味を活かしていただき、ある時は奥地開業の西多摩の五日市町野口幸子幹事のお招きで、秋川溪谷の上流にストープで暖を取りつつ山菜鍋を囲み、日常の診療を拝聴しました。帰りは名産の蒟蒻を重くぶらさげた事もあります。また、子供に帰り西部の主催で読売ランド人魚遊泳の浦島太郎劇を観て、フランス料理に欲談つきず会員同志が全く打ち解けた一日を持ちました。またデラックスバスに乗りこんで、四湖巡り、医師会村の見学、養魚池の鱒料理を味わったのは紅葉の奥多摩でした。都下は景勝の地に囲まれ恵まれております。

この地区は日本女医学会の重要な地位の方々として、井出ヒロ子先生、山本杉先生、小俣、山崎副会長、東京女子医大名誉教授中西先生、新

進理事の野沢良美先生のほか日本女医会として有数の方々を容れて、毎回ご出席下さり会の盛り上りをみせていただきますが、とにかく自主性に乏しく深く反省いたしております。地方の支部会を拝見しますと、北海道支部の運営の立派さ、四国全島の結束を強くされた窪敦子先生の活躍、愛知県支部長森川みどり先生の地域医療活動の実績さには敬服します。地方の方々が、日本女医会会合に診療を休み、旅費を負担され、疲れた体で再び診療されることを思いますと、都下組にありましては真剣な協力こそ地方の方へのせめて心の一端と思っております。定款改正のご協議を重ねていられる由、より良く完成され、日本女医学会に尊敬される役員のご選出を祈り、都下支部にも新支部長選出を願ひ、面目を一新されるようお願いして筆を擱きます。

第十六回国際女医会議に参加して

東京都渋谷区 添田 百枝

去る八月二十七日から九月一日の六日間、西ベルリンで行われた国際女医会議に参加した感想と総評については、本誌第七十六号にすでに山崎倫子先生によって完璧なまでに紹介されました。今年には日本語の同時通訳が採用されましたので、充実した時間がもて何よりもよかったです。今度の会議の特徴は共産圏からの参加があったことで、ソ連、東ドイツ、ポーランド、ルーマニア等、世界の医学は一つといった感がしました。五十カ国以上の女医が参集したといふことは、年間にわたる会長ティーメ女史のなみなみならぬ努力に敬意を表したいと思います。ひるがえって、日本における会議の成功をなつかしむ声が全世界につ



たわり夢よもう一度があつたようにもうけとれます。

あの時期はドイツ全土に一日数回もの驟雨がふり、変な天候でした。あの美しい緑したたるドイツの街並、公園内のベルリン会場は正に清潔な森林の都でした。

開会式は恒例によって華やかに、われ、ひきつづき来賓、国際医科学協会長ゲルホルン教授をおむかえして「現代における医の倫理」、ついでミュンヘン大学のストウルム心理学教授(女性)の「心理学の観点からみたマスメディアと医療に関して」の二つの特別講演がありまして午前の部は終了しました。

午後5時の学術会議でわが国の第一陣として山崎倫子先生等(共同研究者:佐藤千代子、野村多賀子、森川みどり)は日本におけるマスメディアと医療に関して模範的な立派な報告をしました。スライドも鮮明で日本のスライド技術は世界一の感を深くしました。この日の各国の学術報告は全部拝聴しましたが演者等の報告は時間制限を無視するし、図表も不鮮明であるし低調にならざるを得ないと思います。

最終日に行われた藤田親代先生の報告は、「日本における医学情報の誤解を招きやすいマスコミの報道」のセッションで、「小児における気管支喘息と大気汚染の関連から」のテーマであり、その内容を簡単に紹介しましょう。川崎市立病院小児科(川崎市の大気汚染問題がもとで市民のた

めに設立された病院)で演者が過去五年間にわたり治療したのち退院した八十四名について追跡調査をうけている二十六名についての知見であります。大気汚染物質の重なる二酸化窒素、二酸化硫酸、粉塵、煤塵が年々好転しているにもかかわらずまた認定地外の子供達にも、もつと重症児がいるし依然として喘息をはじめ呼吸器疾患は増加している現状で演者の意図とするところは、喘息をひきおこす要因は、家庭環境も含めて、一万種以上もあることであり、ひとり大気汚染地域に限ったわけではなくこの疾患であるから、マスコミ報道によって、公害認定におこみ、働く意欲を失わしめる弊害ともなりうるから、マスコミ報道にあたって医療関係にも相談して報道してほしいことを希望すると結んでいる。はっきりしたい報告であり反響をよんだ。

最後にこの場で、日本女医学会活動の中の慶事として祝いたいという私見を述べたい。医療とはいろんな面でおびやかされつつ過ぎて来た苦難の社会奉仕でもあり、日本女医学会で五十年間の歳月を働きつづけてこられた先輩、国際会議の場で五十年会員表彰を行って下さるなら会員が二〇〇名も出席しているのですから全員の参集する開会式場で、特別講演の前の二、三〇分の時間を利用して表彰していただきたいものです。こういう行事

は日本女医学会のみならず国際女医学会も盛んになることと思います。五十年無事で医業を続けられた過ぎ

### 国外での国際女医学会に初参加して

神奈川県 稲生 襄

西ベルリンでの国際会議に初参加して、とても有意義な楽しい一週間を過ごさせていただきお世話役の方々に深い感謝を捧げます。何分にも今回の参加者は二百名という五十余国千名以上参加の最多数ですから驚きでした。(ドイツ一四六名、メキシコ八六名、アメリカ六〇名、オーストラリア三五名)

一九七六年東京での国際会議に刺戟された事や、日本語の同時通訳が採用された事のほかに、戦前の医学はドイツ医学でしたので何となく親近感のある事、同じ敗戦国として戦後をこの眼でみたい等の理由があったように思われます。

感じたままを少々……私は阪急交通社のAコース(ウインコースでパリ二泊、ベルリン六泊、ウイン二泊、ロンドン二泊の二週間)で総勢三十二名でした。

◎ ヨロップは寒かった。パリに着いた朝は襦袢十一度でふるえ上る二日も好天に恵まれ日当りは快適でした。五年前に来た時、地下鉄に乗りそこねたので真先に乗ったり凱旋門の屋上へエレベーターで上った

日の感謝と明日への励ましをこめて先輩に心からの拍手を贈りたいと思います。

りと満足でした。

◎ 同時通訳は本当によかった。開会式、招待講演、三時間たっぷり総会(二年間の世界中の女医学会の状況を発表する)も少しも退屈する事なしにきけた。言葉が解らないでは小旅行やショッピングに出かけてしまふのも当然と思う。

◎ レセプションは三回出たが、何れもご馳走が少く、日本はあり過ぎたように思う。フアッションショウとしては満点でしょうが……。和服は皆裕の訪問着着用のようでしたからヨロップの寒かったのがうかがえると思います。

◎ 各種ツアーではドイツ女医学会主催の陶器工場見学(半日)とニュールンベルグ(一日)へ行つたが、ガイドがドイツ語と英語なので所々しか解らない。わが神奈川支部では四年前から英会話を志し、出発前は四カ月程ドイツ夫人についてドイツ語の日用会話を受講したが、いくらかは役立ったようです。(タクシーに乗った時、パンケットの席上等)

◎ 阪急主催のツアーでは、ライン河下り(日帰り)と東ベルリン市内

観光へ行く。ガイドが日本人なのでとても気がラクでした。「百聞は一見に如かず」で生で見なければラインの美しさは解らない。

◎ 中世に三百余年栄えに栄えたウインは美しく、音楽の都、森の都として夏一カ月位滞在出来たらどんなに素晴らしいかと誰でも希望でした。

◎ ロンドンは五年前パリから日帰り来たので外観だけしか観なかったウエストミンスター寺院、ロンドン塔、ウインザー城等の内部をすっかり見せていただき、こんなにも素晴らしい観光資源をもつ英国に歴史の重味をつくづく感じた。

私の郷里千葉県の友人のご息子がロンドンから五〇キロ離れたケンブリッジ大学に留学中で(東大医学部卒、外科学専攻)ご夫妻でホテルへ来てくれた。内容は

① こちらの人は、日本はまだまだ遠い島国としか思っていない人が多く、ごく一部のしか行けないところだ。

② 大学へ進学する人は少い、ケンブリッジやオックスフォードを出ても就職難だ。日本で年三百万で英語教師を募集しているそうだが喜んで行くでしょう。(既に二十五名程が各学校に着任しています。先日のテレビでみました……)

③ ロンドンは今から寒くて暗い冬が来るのみ、日本のように快晴の日は少い。夏バカンスに一月以上出かけるのも太陽を求めてであつて

避暑ではない。  
 ④貴族、庶民、下層階級の差が、はっきり存在してちがった生活をしている。  
 ⑤大学にいるヨーロッパ人同志は大変仲がわるい。これでは二十年三十年毎に戦争が起きていたのも無理はない。ヨーロッパの歴史をみても本当にチョットした事がきっかけで戦争が起きている。  
 ⑥アフリカもインドも東南アジア人も英語はうまいが日本人は弱い。三千年の歴史のある国ゆえ仕方ないながら、やっぱり世界共通語はうまくならないと損をする。外人が日本語を学んでくれない限りは……。

⑦日本の出前は大変有難い。疲れて帰った時など電話一つで持って来てくれるような事は到底望めない。以上まとまりない事を書いて失礼いたしました。神奈川県からの出席者は十六名位でしたようですが、とても素晴らしい心の糧となり明日へのファイトを湧かせてくれるでしょう。

# 研修会報告

日時 昭和五十三年十一月十一日

十二日

場所 国立婦人教育会館(埼玉県) 参加者 八十一名(うち宿泊者七十名)

第一回の研修会は、会場が遠方であつたのにもかかわらず、多数会員のご参加を得て二日間の日程を無事終了した。

十一日午後三時、新宿の高速バスターミナルを二台のバスに分乗し出発。本来は二時三十分出発であつたが、定刻を過ぎて参加申込数名の

## 国際女医会発行の "WOMEN PHYSICIANS OF OF THE WORLD" 女医先駆者の小伝

定価 \$27.50(5,500円送料共)

切 2月末日

日本女医会事務局までご注文下さい

森川みどり  
佐藤千代子

方が連絡無きままご集合にならず、出発が三十分遅延したことは、万事好調に運んだ研修会の唯一の遺憾な点であつた。都内道路が渋滞し、心配したが、久瀾の談笑がはずむうちに、バスは郊外へ出るや晩秋の日が落ちる頃には予定通りの時刻に国立婦人教育会館の立派な建物が見えて来た。雑木林、畑、点在する農家等の静かな平面的な広がりの中に、チョコレート色の殿堂といった外観の会館は研修棟、宿泊棟、管理センター棟と機能分離され、広い日本庭園

等を囲んで配置されている。講堂、研修室は大小十教室を数え、宿泊設備ともに簡素ながらも清潔感に溢れている。食堂はキャフェテリア方式であり、食事内容に比し費用低廉であることは流石婦人会館の本領発揮といえよう。ホテルのようにデラックスにくつろぐムードは皆無であり何か緊張感さえ感じる雰囲気であつたが、研修会本来の目的からは第一回の会場を当会館に設定したことは有意義であつたと思う。各自夕食後、部屋に落ち着く暇もなく午後七時より第一日の日程、小出つる子先生から中国針についてのお話を伺う。さいわい日本間の研修室が割り当てられており、実際の施用をご教示願うのに好都合であつた。

### 中国針法への傾斜

小出つる子  
自律神経学会高知県理事

非常な関心を持たれ、熱心に聴講された。小出先生自らご研鑽をつまれば、発見された方式の実施指導も受講者の希望多く定刻すぎまで続いた。(以下要旨はすべて演者ご自身に依頼してお書きいただいた)

永年科学的根據に立脚した近代医学の実践者として、眼科耳鼻科の診療に、オペに邁進してきた私ですが、四年前の訪中以来、科学で解明されない針というものの効果も今までのように排除してはばかりではいけ

ないと思ひなおし、毛氏の言による「先ず実践、後に解明」でも良いのではないかと中国の本を多数購入し、視察して来たことに合わせてオートログとしての私は、耳による全身に効く耳針療法をとりあげ、耳針麻酔にも有効である点、また副作用の全くない上に、医学の壁や薬害公害をとりぞく一方法として用いるべきだと思ひます。当院では、諸症、難病に有効率八〇%を越す成果をあげています。

耳針の安全性、入門し易い点(つぼと病名が同じである点が易しい)で、西洋医学を習った医師こそ、針の勉強を近代医療の補助として、もつと取りあげても良いのであろうとより多くの医師に、耳針に眼をむけていただき、データーをあげていただきたいと存じております。

- 一、痛み、腫れの諸疾患(虫刺、神経痛、痛風、膠原病)
- 二、内分泌の異常に因する疾病(糖尿、副腎ホルモン不足)
- 三、アレルギー(ウルチカリア、鼻炎、眼炎、喘息等)
- 四、内耳、血管系の諸疾(めまい、耳鳴)
- 五、神経の不調(しびれ、ふるえ、眩暈感)
- 六、自律神経失調諸症(更年期、失調によるもの)
- 七、皮膚病(かゆみ、腫れ、慢性のもの)

耳針は、浅刺、二十分置針が原則で、耳針点図を見ながら、ツベルクリン針より細く、針の部の長さが三ミリ程の針をつくり刺してあります。(紙面が少ないので特に有効なものを少しあげます)

針は機能的疾病と、自律神経、内分関連連の病気に非常に有効です。例をあげれば、

十二日午前九時半より第二日研修会開催、本日は吉岡弥生賞授賞者の業績を発表していただき聴講する。演者ご自身の研究を直接説明していただいたことは、そのご研究が専門的であればある程私共が理解する上に非常に有意義であり、あらためて夫々ご立派な業績を再認識し畏敬の念を深め、また同じ女医として誇らしく思ひ今後のますますのご活躍を祈つた。ただ持時間三十分は日程都合とはいへまことに短かく演者にも申し訳なく、かつ残念であつた。

### トリコマイシンの発見から抗ガン剤発見へのアプローチ

千葉大学講師 添田百枝  
トリコマイシンの発見(一九五二年)にあたって、いきなり見出されたわけがなく、第二次世界大戦中に



はじめられた碧素が終戦をむかえてペニシリンとなりその工業化が終つて、抗生物質の研究がはじめられた。その間

(一) 新抗生物質ロゼオスライシンの発見

(二) クロランフェニコールの単離

(三) レチクリンまたは同名語ハイドロキシストレプトマイシンの発見

(四) 抗カビ性抗生物質ロタベンチンの発見 (一九五〇年)

(五) ストレプトコッカスに効くH63物質の発見 (一九五一年)

(六) 同年キサントマイシンの発見

(七) 同年ルテオマイシンの発見

まさに抗生物質の播種時代がはじまったわけでも出たものすべて新物質であり幸運の時代であった。

一九五一年の正月に新抗カビ酵母抗原虫物質トリコマイシンの発見があったわけで、通し番号はH-2609であり、細谷先生を記念してHの称号をつけた。

めまぐるしい新物質の発見で夜もない日がつづいた。

同年に恙虫有毒地の秋田県の中から抗カビ物質アキタマイシンを発見同年抗カビ物質ユーロチンを発見したがこれらの二者はトリコマイシンにまさるものではなかった。

トリコマイシン発見の意義は、菌交代現象によっておこされる抗カビ類の治療に、また病原性酵母、原虫類にその効果を發揮し難病にならずにすんでいるわけである。

臨床の効果も大切であるが学問的意義はウァイニング等によってポリエー系物質群としてその位置をしめた。平田教授等により結晶化に成功し構造式が推定されたことである。

全世界では多くの学者が追試し、いつも対照におかれている。

ごく近年刊行されたレニングラード研究所のテネン教授の著書にも紹介されてその効果を報告している。

なお、植物の病原性カビにも試験管内でその効果が報告されている。

また一九六七年までに全世界で抗カビ性物質は八十九を教えたがトリコマイシンを凌ぐものは未だ出ていない。

一九五五年にいたり抗腫瘍物質の研究にとりかかり、抗ガン物質カルチノマイシン(M1)を見出した。

一九五七年には抗ガン物質マリナマイン(M2)を見出した。この二者のおかげで毒性のない抗ガン物質のあることの発見につながった。

一九六〇年この中から白血球増多剤マリマイシンを見出し、放射線治療時に伴用すると白血球減少を起さない物質であり評価された。

一九五五年に発見して一九六〇年以降開発に入ったソドマイシン(M3)は現在早朝発見により切除した胃がん患者の臨床試験の成果に期待がもたれている。

近年抗カビ性物質の研究から抗ガン物質の研究は怪我の功名で近道だったような方向にむいているようである。

### 二、線維素溶解現象研究の二十年から

神戸学院大学栄養学部教授 岡本歌子

恩師、慶大生理の故林嶺教授の命で、夫岡本彰祐と共に三菱化成研究所と協同研究をはじめたのは一九四七年のことである。

戦後の企業の立直りの苦闘の中でこの会社が社運をかけた項目の中に「製薬」があった。「世界に類のない新しい薬品の開発を」という言葉の魅力にひかれてこの計画に参加することになった。この計画の責任者に岡本彰祐がなった。年余にわたる、討議と準備の末課題は「線維素阻害物質の研究」にしばられ、四十九年から実際の研究がはじまった。

当時の線維素に関する知識と言えは血中にはプラスミンと名付けられたフィブリン分解酵素が存在する、ということと血中蛋白分解酵素の亢進と、ある種の病的状態が関連するらしい、という程度であった。酵素の合成阻害物質を求めるといふこと、またその生体応用により酵素自身の生物学的意義を追求しようという試みは、医薬品開発という主題から離れず、科学的方法論的な興味として私をとらえて離さなかった。

系統的な有機物質の探索で、リジンが弱いながら線維素阻害効果をもつことが分ってきた。リジンを骨格としてさまざまな物質が化成の合成スナップにより合成され、かなり強力

な阻害物質として、イブシロンアミノカプロン酸が発見された。この頃は病気をしており、リジンとイブシロンの劇的な発見の瞬間に立ちあつていないのはまことに残念である。イブシロンは人体応用が可能であることが分り、後にヨーロッパ・アメリカでも臨床的に使用されるようになった。

さらに強力な阻害物質を求めて研究は続き、アミノメチルクロヘキサカルボン酸が得られた。これは医薬品としても理想に近いもので、後にトランサミンという名で広く臨床応用されるようになる。

合成物質の研究が続く一方、プラスミンの病態生理学的意義、また阻害物質の応用研究のためには、高い技術をもった医学研究者の協力が必要だった。この目的で、一九五六年慶大医学部内にプラスミン研究計画委員会が発足した。委員長は学部長岡本彰祐は総幹事であり、私は研究センターの責任者になった。センターの仕事は、文献の探索と協同研究者への配布、研究課題の討議、実際に測定法の研究と臨床研究者への協力、動物実験と、文字通りの協同研究のセンターであった。

このセンターで、SK活性化総プラスミン値測定法が出され、多くの臨床症状、とくに出血との関連が見出された。これが「潜在性プラスミン活性亢進状態」の指摘となり、さらに多くの臨床的研究と出血治療に基礎を提供するようになった。

これらの成果は、国際的には、一九五八年の国際血液学会、一九六二年夏の岡本のメキシコ(国際血液学会)、私のオランダ(国際生理学学会)の同時発表となり、さらに臨床研究者の多数の学術報告となった。

こうして「世界に類のない医薬品の開発」という初期の目的は達成された。私の神戸赴任と共にプラスミン・センターは事実上消滅したが、この阻害物質はひとり立ちして、線維素亢進による種々の出血、滲出、炎症等々の治療薬としてひろく使用されている。

日本はすでに「戦後」を過ぎ、とくにこの十年の高度成長は日本人の死因を大きく変えた。とくに食生活の欧米化は血栓症の増加をもたらした。今私の興味を中心は血栓除去にある。

最近ヒトや動物の肺や脾に不溶性のフィブリン分解酵素を発見。部分純化して今夏のバリの国際血液学会で報告してきた。

プラスミン阻害物質の研究にはじまって、私のライフワークはフィブリン溶解の統御ということになりそうである。私は過去も現在も立派な協力者に恵まれている。幸福である。

### 三、幼少脳性マヒ児療育施設の創設と現状

社会福祉法人鶴風会会長  
脳性マヒ児を守る会理事長  
龍知恵子

この仕事は昭和三十五年の四月から鶴風会理事会で構想を練った古い問題でございます。当時は幼少(生後六才まで)の肢体不自由児の福祉対策は諸種の社会福祉面で最も後れているといわれ、全国に入院施設もなく、したがって治療効果のある重大な時期に加療の機会を与えられぬまま家庭に放置され悲劇をうみ出している状態でした。常任理事の藤永姉と厚生省の母子衛生課にまいり

厚生省で現在最も必要にせまられておられる問題をと聞きましたら「小児専門病院」と「幼少肢体不自由児の施設です」といわれました。鶴風会では「女で、医者で、母親でなくては出来ない仕事」をやろうという事を考えておりましたが、金もなく土地もなく、あまり大事業だ、と鶴風会の総会で大反対されましたの十八人程の有志が、どんな精神的な苦勞も経済的な苦難にも耐えることを誓いあって、自費を出し合って財団法人をつくり、大蔵省、厚生省、東京都の認可を受けて寄附金をつくる事になりました。土地の件は関東財務局長と大蔵大臣の御厚意によって八千坪の国有地の払い下げを受け

都下武蔵村山市中藤)、池田総理夫人満枝様におすがりして、建設会社をご紹介いただき、五年、十年の延べ払いの約束で総工費二億八千四百万円で作築が出来ました。本館、病棟、看護婦宿舎計千三百二十八坪。竣工は三十九年四月で企画をたててから満四半年半でした。社会福祉法人鶴風会東京小児療育病院と命名し院長は母校で整形外科の助教をしておられた常任理事の藤永数江姉にお願いし、以来十五年間御苦勞を願っております。現在では肢体不自由児全国協議会民間施設会長として全国の施設長のご相談相手をしておられます。

東京小児療育病院院長 藤永数江

東京小児療育病院は、脳性まひの早期療育と発生子防を目的として設立され、今年十五年目を迎えます。脳性まひの早期療育を日本で最初にはじめた施設であります。当時東大時代の同窓の方々が施設長の主流であり、上記の目的を話したところ、一笑にふされました。経営上ならたないといふことであり、研究所については一民間施設の考えることではないという事でした。しかしそれでもなお研究所は開所されました。早期療育は十五年を迎えました。脳性まひにとつては、これだけが運動機能の改善をはかる唯一の方法だからなのです。開院以来経営的には苦難の道を歩みました。しかし入院児

は日々明るく健やかに成長し、多くの子供たちはまぎれもなく運動機能を恢復し、退院していく子供たちでありました。早期療育は今や常識であります。当院開設後数年して大阪の聖母幼稚園がボバース法を提唱され、三年位前に、ボイターによる講習会が京都の聖ヨゼフ整肢園で行われ、超早期訓練(生後四カ月位より)が華々しく登場してまいりました。いよいよ早期訓練が全国的に広がってきたのであります。早期訓練の方法については、先駆者の偉大なる努力啓蒙によってボバース法、ボイター法、ルード法等々いづれも脳性まひを疑われた時期(脳性まひは生後四カ月頃では重症児以外確実な診断は困難)症状の重度、合併症などにより診断した医師は適切な処方をしなければなりません。近時脳性まひは、早期発見、疑わしきものは早期訓練を、の方向に厚生省の施策も進んでまいりました。日本で最初に早期訓練をとりあげた当院としては、真に治療効果をあげうるレベルの高い施設にすることへの努力をしなければならぬと思っております。

開院以来十五年、脳性まひの入院療育には全職員が自信をもっています。訓練棟にはPT七人、OT五人、ST三人、病棟には二・五対一の看護婦のほか、保母、児童指導員も配置し、早期療育の質を向上させる努力をしております。女医学会の諸先生、診察された中に正常児でないと思われる赤ちゃんがいましたら、一日も早く治療を受けるようにご助言下さいますようお願いいたします。脳性まひの治療はこれしかありません。

最後に特別講演として、フジテレビニュースキャスターであり、評論家の有馬真喜子先生より「今日の婦人問題」と題してのお話を拝聴した。ニュースキャスターという職業上の立場から、最新の情報を広い視野にたつて把握されしかも個々の問題を分析からその背景、展望に到るまでときには、ここだけの話ですがと未発表の話も含め、縦横無盡の明快なお話は、私共をすっかり魅了した。国連を始め、国際的取材からの

豊富な認識に基づいて語られたお話は、日頃女性の問題に深いかわりを持ちながら仲々勉強する機会のない私共にとって非常に貴重なお話であり、私共が今後女性の地位向上について考えるための大きな示唆を与えられた。

## Circular Letter No.52

October 5, 1978 国際連絡書記 佐野アヤ子(訳)

国際女医学会第十六回国際会議の楽しい思い出を持って、皆様が各国に無事帰国された事を希望す。国際女医学会前会長 Dr. Helga Th. Hieme、ドイツ女医学会長 Dr. Hebbel Henger 及び多数のドイツ女医学会員の努力により国際女医学会第十六回国際会議は、一〇〇〇名以上の参加者を誇り、大成功に終り、皆様に非常に喜ばれた事を感謝す。ホンコンを除き、国際女医学会全加

盟国(三十六カ国)がこの会議に出席し、他の国々からも沢山の同胞が参加されました。(全部で五十三カ国)これは Dr. Helga Thime の努力により Carl Duisberg Society が会議直前に発展途上国より十八人の同胞を招待し全部の費用を負担しマスメディアと医療についてセミナーをした。これは発展途上国の同胞達に取って国際女医学会に出席する特別の機会でした。

学術会議に関する新聞の感想に對しても、この會議がマスメディアにおいて広い反響を得た事を銘記す。我々は、ドイツ女医会の同胞の努力、親切、款待を心から感謝す。

国際女医会第十六回国際會議の報告集は例年どおり国際本部がウインにおいて発行される。これは、国際女医会または国際女医會議の一般資料または国際女医會總會、決議事項及び學術議題の総括等を含む、これは出来た時点で各国に送る。

次に重要な事々を加える。  
一、ベルリン會議においてガーナ及びシラレオーネが新しく加盟国となる。(中近東の地域に含まれる) 国際女医會の加盟国は二十九カ国となる。

二、新役員は前号に記載されている。名譽會員はもう一人 Gabrielle Henry(France)がめけてゐる。地域の區別が少し異なる。南アメリカが Ibero-America となる。北アメリカに含まれていたメキシコが Ibero-America に含まれる。

三、国際女医會第十七回国際會議はテヘラン(イラン)で一九八〇年十月三日から十日開催される。學術議題は Medical Priorities in Developing, Progressing and Established Countries 発展途上国、先進国及び確立した国の医療の優先権。

四、M.W.I.A.の決議事項の重要性を認め広く流通させる。国際女医

會本部はこの決議事項をあらゆる国際団体に送り、我々はこれを正確に厚生省、大学または他の適当な機関、個人(その国の状態による)に流通させ、その結果の報告を待つ。

**決 議**

一、幹部役員より提出

M.W.I.A.の定款に明記された本會の目的及び目標を強調し、發展させるため医療倫理に関する次の五項目を全會員が実践すべきである。

- (一) 如何なる状況下にあつても、同胞である人類に對し、拷問、その他どんな形の非人道的な、恥ずべき処置を奨励したり、許したりしてはならない。
- (二) 拷問、その他、非人道的な恥ずべき処置を行う目的のためには、如何なる方法とか知識をも提供してはならない。
- (三) 留置人、囚人の健康に身体的、精神的に反對の影響をあたえる様などんな形の刑罰でも、これに適切なものと証明するため、また尋問の方法を援助するため、我々の知識または手技を用いてはならない。
- (四) 留置人、囚人に對する我々の医学的立場は彼等の健康の保持と増進を唯一の目的とすべきであり、これは刑務所外環境においても認められるものと同様のものでなければならぬ。

(四) 拷問、その他の形の非人道的な恥ずべき処置を行う事を拒否した結果、脅迫、報復を受ける様な場合があれば、W.H.O.W.M.A. CIOMS M.W.I.A.並びに全世界の同業医師により、これに對抗するに當り、支持を受けらるであらう。

二、母子健康委員會の提出

(一) M.W.I.A.は高い母子死亡率を持つ国々に健康教育の改善のためにマスメディアを用いて奨励する事を提出する。

(二) 連続性の低い水準をもつ多くの国々の母子健康状態をM.W.I.A.が心配して、これに適切な国際的または国内的の団体に關心を持たせる様提出する。

三、栄養と食物(學術會議)

テレビジョンのために各国の厚生省、文部省等関係官庁が栄養の教育プログラムを検討する委員會を設立する事を決意する。

四、ドイツ及びイラン女医會により提出、子供の虐待

(一) 子供の虐待に気づいた人、特に隣人等が警察または社会福祉施設に報告する事をマスメディアが奨励すべきである。

(二) 虐待の疑いある子供達を報告する人々は責任から免がれる様、そして彼等の名前を伏せる様にすべきである。

(三) 以上の事を全ての国々が法律を持って履行する。  
五、フィリピン及びタイワンの女医

會が提出す。  
(一) 母子健康クリニックは住民の住む最も広い部分にまで拡張する。これは M.W.I.A.が子供の年に對する一つの貢献である。

(二) これらの貢献は母子健康の予防時期、特に栄養、免疫及び家族計画等に努力すべきである。

六、先進国及びドイツ女医會より提出す。

発展途上国二十カ国及びドイツ女医會より設立された勉強会のグループが医療及びマスメディアに関する提案をM.W.I.A.が支持する。そして全ての発展途上国の政府に次の様な要求をすべきである。

- (一) 現存する健康情報の宣伝を強め改善する事を要す。
- (二) 健康情報の広い散布に最も重要な方法として証明されているラジオやテレビジョン等のない国々の政府にこれらの物が設備可能となる方法を取る様に要求する。

(四) 午後二時四十五分〜六時四十五分  
場 所 至誠會館 四階會議室  
出席(敬称略)  
三神、小俣、山崎、稲葉、久保田、中川、福永、松岡、丸山、森川、守安、柳瀬、佐野、尾中、大西、川口、佐藤、橋本、蓮井、平瀬、藤田、八木、山口、山本、白浜、添田、森

欠席(敬称略)  
川那部、野沢、大原、川島、鈴木、竹内、野中、野呂、福島、藤井

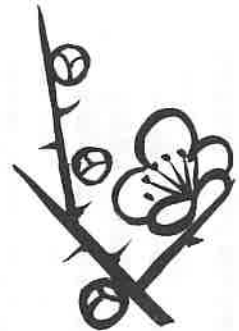
一、本日(敬称略)の定款に関する臨時理事會を傍聴希望者の十名の傍聴の了解をもとめる。

二、本日の理事會に要望書が提出されている事の報告。  
議 題 司會 山崎副會長

一、定款について  
第十三、十四、二十三、二十六および三十五條の各條を審議する。

(a) 役員に関する種々のこと  
a 理事等の任期は連続二期とする。  
b 選挙管理委員は代議員會で四カ月前に決める。  
c 役員選挙方法について  
細部にわたって、多数意見が述べられ決定された。

d 理事の数は三十一〜三十五名ときままる。



**理事会議事録**

日 時 昭和五十三年九月十六日

(b)理事會において代議員制を採  
択する。しかし役員に入れな  
い。

定款委員会からの答申案は、九月十  
六日の理事会において審議。  
後に開催される評議員会ならびに総  
会を経て、決定にいたるものである。

傍聴者(敬称略)

広島県支部 多田深雪 増田文  
枝 富永睦子 長尾スミ子  
高土トシ子 矢野ミチ子  
白石千枝子 住田静子

宮城県支部 安部マサ  
高知県支部 小出つる子

要望書提出者(敬称略)

広島県支部代表 増田文枝  
宮城県支部 安部マサ  
石川県支部 米林梅子  
福岡県支部 熊手テロヨ  
以上 大西保乃

日時 昭和五十三年九月三十日

(出)午後二時四十五分―八時  
十分

場所 至誠会館 四階会議室

出席(敬称略)

三神、小俣、川那部、山崎、稲葉、  
久保田、中川、野沢、福永、松岡、  
丸山、森川、守安、柳瀬、佐野、  
尾中、大西、川口、佐藤、鈴木、  
竹内、野呂、橋本、藤井、藤田、  
山口、山本、白浜、添田、森、  
欠席(敬称略)  
大原、川島、野中、蓮井、平瀬、  
福島、八木

庶務報告

松岡常任理事

7月22日 常任理事会及び理事会  
を行う

国際女医会第十六回国  
際会議の理事五名、評  
議員二十五名に推薦状  
を発送する

8月11日 総会欠席支部長宛に昭  
和五十二年支部助成  
金を発送する(61支部)

8月17日 会誌七十五号及び研修  
会のお知らせを全会員  
に発送する

9月8日 全国医科大学へ学位取  
得者及び医師国家試験  
合格者氏名、住所の調  
査を依頼する

会計報告

川口理事

磯部貞子先生ご遺族より香典の礼  
状、後藤みちえ先生ご遺族より香  
典の供養の品あり。

七月、八月分別紙のとおり 承認

議題

一、定款について  
前回までに審議された定款を  
整理、整頓、清書して庶務か  
ら配布する。これをさらに検  
討審議する。

(a)施行規則

定款委員会案 第一章目的  
を削除したため第一章会  
員とする。  
定款委員会案 第二章第五  
条責任を第四章会計の項  
目を設け第二十五条責任  
とする。

改正案 第三章選挙第七条

理事の選出  
理事の数は三十一―三十  
五名とする理事のうち地  
方区立候補理事は十名と  
する。

2及び3は削除…と変更  
別表ブロック(5)東京都の中  
へ東京女子医大支部を入  
れる。

(b)定款

代議員制についてさらに検討  
を加え、会員の意志を尊重  
し、充分に反映させること  
のできる制度となるよう慎  
重に審議を続行する。また  
理事会としては今回の日本  
女医会の代議員制度案につ  
いて厚生省の見解を聞くべ  
く、それを三神会長及び山  
本理事に委任した。なお、  
本理事に委任した。なお、  
定款については、さらによ  
く検討すること。承認

二、事業計画内容一部変更の件

本年度は女医の実態調査の英  
訳版の発行をしたため、事業  
計画内容の一部変更し、今年  
度の事業部予算から八十万円  
(印刷費七十万円、翻訳料十  
万円)を支出。承認  
三、国際女医会ベルリン会議につ  
いて  
(a)国際女医会への寄付金二五〇  
〇円の件  
各人に全額返金とし、送料  
手数料共に国際ファンドよ

り支出。承認

(b)同時通訳料不足分十三万四二〇  
〇円も国際ファンドより支出  
(c)広報部よりベルリン会議の報  
告を書いてもらいたいとの依  
頼あり。

会議報告書を佐野連絡書記  
会議総評を山崎副会長  
その他を諸先生方 承認

四、その他

(a)医事新報ジュニア版に女医の  
実態調査報告書のこと掲載  
されたため申し込みのあった  
場合、実費販売費として八〇  
〇円を貰うこととする。了承  
今後は事前に理事会の承認を  
得ることを再確認する。

(b)学術部 森川常任理事  
国立婦人教育会館での研修会  
について  
・有馬真喜子氏の演題は「今日  
の婦人問題」に変更  
・研修会参加資格は会員に限る  
・業者の展示は禁止  
・演題、演者名を会員に通知す  
る。  
・申込〆切り人数は一一〇名で  
あるが、現在は七十五名。

(c)中国婦人代表団歓迎に対する  
寄付金の依頼 承認  
五万円  
(d)会計部 守安常任理事  
右記代表団歓迎会に出席され  
る場合の旅費の支給。研修会講  
師謝礼その他を支払う。承認  
(e)滋賀県支部より支部助成金の

返金の件

雑収入に入れる。  
(f)墨田支部の件  
支部長欠員のため依頼する。  
(g)中国旅行(友好訪中団)につ  
いて

別紙案内プリントについて  
日本交通公社より説明あり  
期間 昭和五十四年一月三  
日―一月十八日  
人数 二十五名  
申込期日 十一月末

(h)日本交通公社の年末年始メキ  
シコ旅行を会誌に掲載の件  
承認  
以上 松岡宏子  
竹内静香

日時 昭和五十三年十月二十八日

(出)午後二時四十五分―五時  
四十分

場所 至誠会館 四階会議室

出席(敬称略)

三神、山崎、久保田、野沢、福永、  
松岡、丸山、守安、柳瀬、佐野、  
尾中、大西、川口、鈴木、橋本、  
蓮井、藤田、八木、山口、山本、  
白浜、添田  
欠席(敬称略)  
小俣、川那部、稲葉、中川、森川、  
大原、川島、佐藤、竹内、野中、  
野呂、平瀬、福島、藤井、森  
庶務報告 松岡常任理事  
9月16日 常任理事会及び理事会  
を行う

9月30日 理事会を行う

10月2日 国際女医学会より五十年  
会員表彰状を三十二名  
に発送

10月7日 ベルリン会議参加者に  
雑費返金

10月10日 イラク婦人団体歓迎会  
に渉外部、佐野アヤ子、  
平瀬文子両部員出席

10月21日 研修会通知を全会員に  
再度発送

10月23日 新卒国家試験合格者に  
当会入会のお誘いを発  
送(四〇九名)

10月24日 日中平和友好条約批准  
祝賀と鄭小平副総理欽  
迎会に山崎副会長出席

10月25日 学位取得者に当会入会  
のお誘いを発送(七一  
名)

川島婦貞、室住重子、平出ふさ江  
三先生の各ご遺族より香典の礼状  
あり。

会計報告

福永常任理事  
九月分別紙のとおり 承認

会長より会員の傍聴希望者に対して  
の承認を求める発言あり。

議題

一、定款について

会長より、三神会長と山本理  
事との両氏が定款ことに代議  
員制に関しての問合せの時  
めに厚生省に出向いたその時  
の内容の報告あり。それを要  
約すれば「厚生省としては評  
議員会と総会との承認を経た

上で、定款改正案を提出する  
こと、その内容は日本女医  
会独自のものであつてよい」と  
解釈出来た。  
役員選出方法について  
代議員会で行うか、総会で行  
うかについて出席理事、監事  
各自が意見を述べた上で、多  
数決で決することにした。  
その時出席理事十八名  
(a) 役員選出はすべて代議員会  
で行う。 五名  
(b) 理事、監事の選出は代議員  
会で、会長、副会長の選出  
は総会で出席会員により行  
う。 九名  
(c) 役員選出はすべて総会で行  
う。 一名  
(d) 何れがよいか、もう少し調  
査研究せねばわからない。 三名

以上の結果にて「b」と決  
まる。なお、日本女医会独  
自の代議員制に於いて、派  
生する問題と多少不備の箇  
所等あるため、次期の理事  
会までに理事の中の定款委  
員が集会をもって文案を作  
成することになった。  
なるべく早い時期に評議員  
会、臨時総会を開催したい  
意向。 了承  
二、国際女医会議記念事業基金の  
運営委員を設置することに  
ついて  
十一月二十五日までに各自  
の考えをまとめて来ること。  
了承  
森監事、重症にて入院三神会長か  
ら症状報告あり。  
傍聴者(敬称略)  
多田深雪、富永睦子、大前友枝、  
嘉尾文子、高橋龍子、安部マサ  
伊藤慶子  
以上 大西保乃

日 昭和三十五年十一月二十五  
時 日(土)午後二時四十分〜六時  
五分  
場 所 至誠会館 四階会議室  
出席(敬称略)  
三神、小俣、山崎、久保田、中川、  
野沢、福永、松岡、丸山、森川、  
柳瀬、川口、佐野、鈴木、竹内、  
橋本、蓮井、福島、藤田、八木、  
山本、白浜、添田  
欠席(敬称略)  
川那部、稲葉、守安、尾中、大西、  
大原、川島、佐藤、野中、野呂、  
平瀬、藤井、山口  
庶務報告 久保田常任理事  
10月28日 常任理事会及び理事会  
を行う  
11月11日〜12日 講演研修会を国  
立婦人教育会館におい  
て行う  
11月16日 定款に関する相談会を  
行う  
11月17日 日本女医会誌七十六号  
とルーペンゲンティス  
カウントセールスのパン  
フレットを全会員に発送

春日井孝子先生ご遺族より香典の  
礼状あり。  
日中友好婦人連絡会全体会議報告  
あり。(別紙)  
稲葉先生より病氣欠席届あり、現  
在自宅療養中。  
監事森先生は、十一月十七日死亡、  
十九日葬儀、生花を供える。  
黙禱、森先生の冥福を祈る。  
川口理事  
十月分別紙のとおり 承認  
今回の研修会に出席の通知をし  
ながら、欠席した方があつたが、  
今後は会費を必要とした場合欠  
席者も会費を支払うものとする。  
議題  
一、定款について  
理事会改正案と別紙(定款に  
関する相談会の報告)を対比し  
ながら審議を行う。  
P・4 第十三条(1)  
副会長は三名と決定  
第十五条3  
：常務を行うに訂正  
P・7 第二十七条  
捺印とする  
P・8 第三十一条  
六回以上とする  
P・9 第三十五条7  
ただしを抹消  
定款施行規則  
P・14 第七条2  
21〜25名とする  
P・15 第十一条  
：会長が委嘱するに  
決定  
第十五条(1)  
：選出し、五月十日  
までに本部へ通知す  
る  
P・17 第二十四条3  
代議員及び予備代議  
員の選出は、各支部  
で行ない三月末日ま  
で本部に通知する  
P・17 第二十四条5  
代議員数は一月三十  
一日現在有資格者数  
をもつて定める。に  
変更  
P・19 最後に付記として次の  
項を記す  
本会に裁定委員をおく  
ことができる  
以上で審議を終了し、理事会案  
として決定する。条数などを整  
理して印刷、十二月中に全会員  
に発送する。  
二、その他  
(a) 会計より来年一月理事会まで  
に、各部の子算案の提出の要  
請あり。  
(b) 来年一月二十七日理事会、そ  
の後新年会を行う。  
(パレスホテルを予定)  
(c) 評議員会  
日時 五十四年二月十日(土)  
午後二時  
場所 至誠会館 四階会議室  
夕食の用意をする  
(d) 臨時総会  
日時 五十四年二月二十五日

(日)午後二時  
場所 京王プラザホテル  
臨時総会後懇親会

(e)職員ボーナスの件

年間五カ月と決定しているの  
で、夏期二、三カ月、冬期二、  
七カ月を支給。

(f)観劇のお知らせ

文字座「東海道おらんだ怪談」  
十二月八日、十九日まで団体  
三十名、グループ五名以上割  
引

(g)十二月常任理事会

二十三日(出)午後二時より  
傍聴者(敬称略)

伊藤慶子(午後三時五十五分  
〜四時二十分まで)

以上 松岡宏子  
竹内静香

事務局だより

国際女医学会会員継続  
五十年会員表彰者(敬称略)

- 大沢志ず(埼玉) 延島秀子(茨城)
- 森いさを(茨城) 青木知恵(足立)
- 大石アヤメ(足立) 矢ヶ部栄子(品川)
- 小林いつき(渋谷) 藤原良
- (渋谷) 小林龍野(新宿) 牧甫
- (目黒) 佐藤イクヨ(新宿) 高橋
- 希以(神奈川) 西村 静(神奈川)
- 宮崎悦子(神奈川) 毛利智恵(神奈川)
- 若林静子(神奈川) 小栗初

- 江(静岡) 黒島 冬(静岡) 蟻川
- つや(愛知) 野村きそ(愛知) 森
- 川みどり(愛知) 松波寿美(岐阜)
- 奥村寿麻(大阪1) 但野和子(大
- 阪5) 都竹ふさ(大阪5) 田中ひ
- さ(兵庫) 齊藤仁代(山口) 島本
- マサコ(山口) 三木千春(愛媛)
- 坂本広猪(高知) 大石静子(杉並)
- 福山春枝(福井)

会員物故者(敬称略)

- 遠藤瑞枝(若手) 加藤誠子(愛知)
- 後藤みちえ(愛知) 高橋富久子
- (兵庫) 磯部貞子(愛知) 川嶋端
- 貞(青森) 室住重子(徳島) 奥村
- 寿麻(大阪1) 岡本系枝(大阪10)
- 平出ふさ江(北海道) 石井節(静
- 岡) 春日井孝子(岐阜) 杉本妙
- (高知) 浅田さわ(神奈川) 森千
- 鶴(都下)

入会々員(敬称略)

- 竹中美智(宮城) 伊野照子(大阪
- 10) 磯野礼子(神奈川) 後藤あ
- さ子(兵庫) 大目志津子(岐阜)
- 長瀬美良子(北) 鹿田儀子(北)
- 内田八重子(練馬) 銀山アサ(静
- 岡) 中野朱実枝(山梨) 高橋葉満
- 子(秋田) 松岡耐子(高知) 中島
- 芳代(高知) 采元誠子(高知) 秋
- 山まり子(秋田) 小林政代(山形)
- 長尾富美子(墨田) 石橋悌子(台
- 東) 本多三枝子(渋谷) 笹井安佐
- 子(杉並) 堤喜久子(千代田) 相
- 澤喜久子(長野) 川本良江(足立)
- 児玉セツ子(杉並) 高杉キミ(神
- 奈川) 山田邦子(群馬) 小林栄子
- (葛飾) 萩谷淑子(品川) 仁木玲

- 子(神奈川) 青井礼子(千葉) 小
- 田昌代(中野) 大野幸(愛知) 高
- 田七江(神奈川)

新卒入会々員(敬称略)

- 山中千里(東女医) 高山澄子(東
- 女医) 春日順子(東女医) 加藤庸
- 子(愛知医) 水野和美(医科歯科
- 大) 小澤啓子(昭和女) 中井呈子
- (東女医) 岩尾京(北里大) 桶谷
- 由紀(北里大) 森山みよし(日大
- 医) 井口登紀子(聖マリアンナ医
- 士方康世(関西医) 富本昌子(東
- 女医) 河村万里子(関西医) 高木
- 麻栄(医科歯科大) 三浦美智子
- (日本医) 田中美穂(日本医) 小野
- 昌美(東女医) 鶴飼ひとみ(東女
- 医) 鈴木智子(東邦医) 北江啓子
- (大阪医) 佐々木道子(東女医)
- 河崎久美(兵庫医) 白石憲子(東
- 女医) 脇本京子(兵庫医) 森田み
- さ子(愛知医) 立石由紀子(東女
- 医) 加藤えり子(名古屋大) 蛇名
- 玲子(埼玉医) 小松明子(岡山大)
- 領崎育世(東女医) 三上朋代(東
- 女医) 渡辺愛子(東邦医) 小林明
- 美(愛知医) 坂口まり子(長崎大)
- 太田悦子(関西医) 杉浦路易子
- (兵庫医) 有馬けい子(兵庫医) 梅
- 津真理(東北大) 越村一美(東女
- 医) 大原直子(神戸大) 野崎藤子
- (福岡大) 柴崎純子(三重大) 曾
- 根崎真理(東女医) 上杉庫二子
- (日大医)

退会々員(敬称略)

- 後藤敬子(群馬) 米岡万戸土(香
- 川) 赤羽久子(杉並) 坂本孝子

編集後記

昨年の夏、試験管ペーピー(正確にはペトリディッシュペーピーか?)とヘルルトトリビューンの論評にありました。の誕生に伴う種々の批判が長い間、新聞あるいは研究室での話題になっておりました。また、遺伝子工学の人類に対する寄与の大きさへの期待と同時に、誤った応用結果のはかり知れない恐ろしさをも考え、この領域の研究をきびしく規制する委員会が日本にも発足しました。

昨年、私にとって印象的であった論文の一つに医事新報十一月二十五日号にのつた砂原博士による「臨床医学はどのようにして進歩するか」の一文がありました。結核の治療方針の変遷(リファンピシンの応用で短期療法が可能となったこと、頭の切替えのむずかしさ)を例にとられたものです。科学が進歩する程に、その成果応用の選択決定の中心的存在に立たされる機会が多い医師の責任の重さをつくづく感じます。

こうした時代に存続する日本女医学会としての抱負は、各部の先生方が本号に記されてますように沢山あります。会員一同が、よい具体案を提示し検討し、実行に移し、会の存在をかみしめうる一九七九年でありたいと願う一人です。(藤井)

昭和五十四年一月二十日印刷  
昭和五十四年一月二十五日発行  
編集人 丸山芙実  
発行人 日本女医学会  
発行所 東京都新宿区市谷河田町19  
社団法人 日本女医学会  
TEL 3410968  
印刷所 東京都文京区本駒込  
一七七一十五  
株式会社北斗社